

高齡者福祉分野

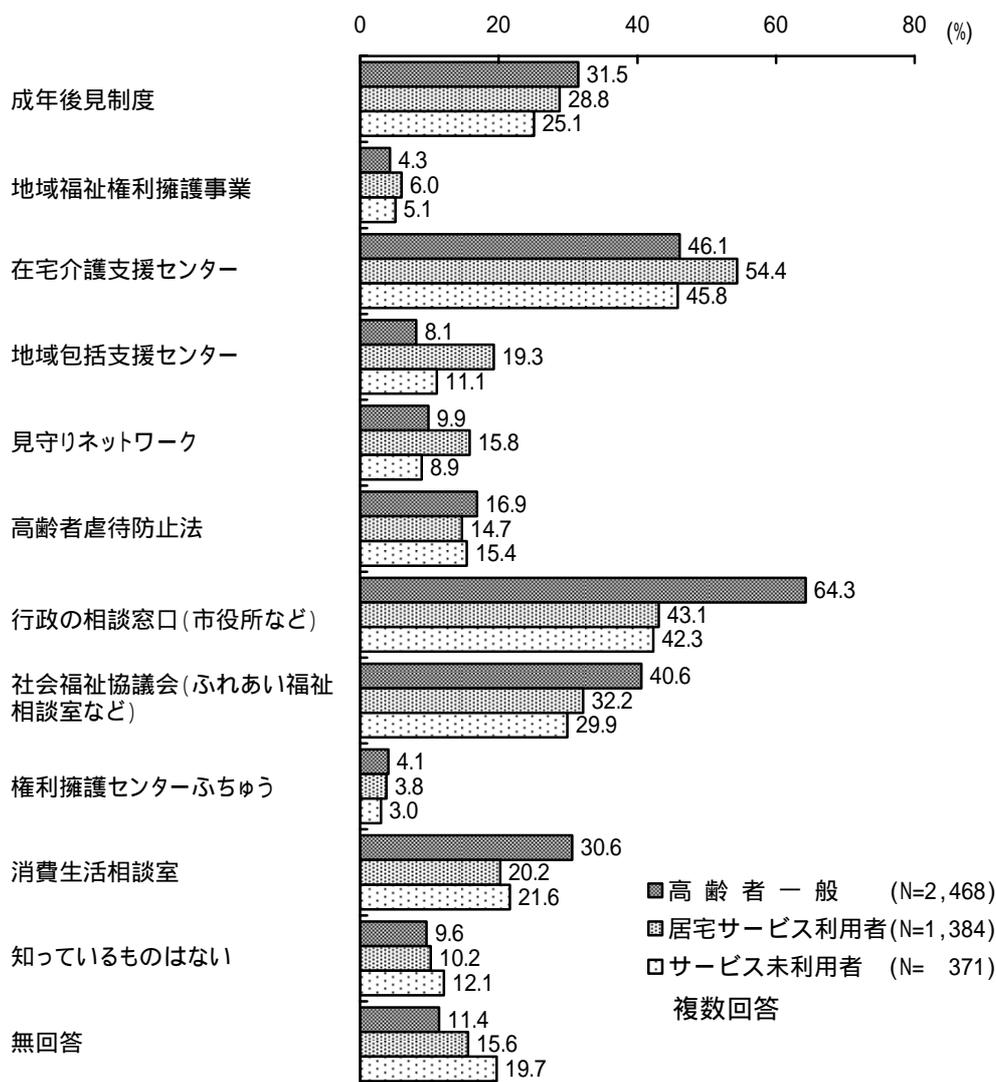
高齢者調査

(1) 高齢者調査共通質問

権利擁護の制度や相談窓口の周知状況

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口について、どの程度知っているかたずねました。

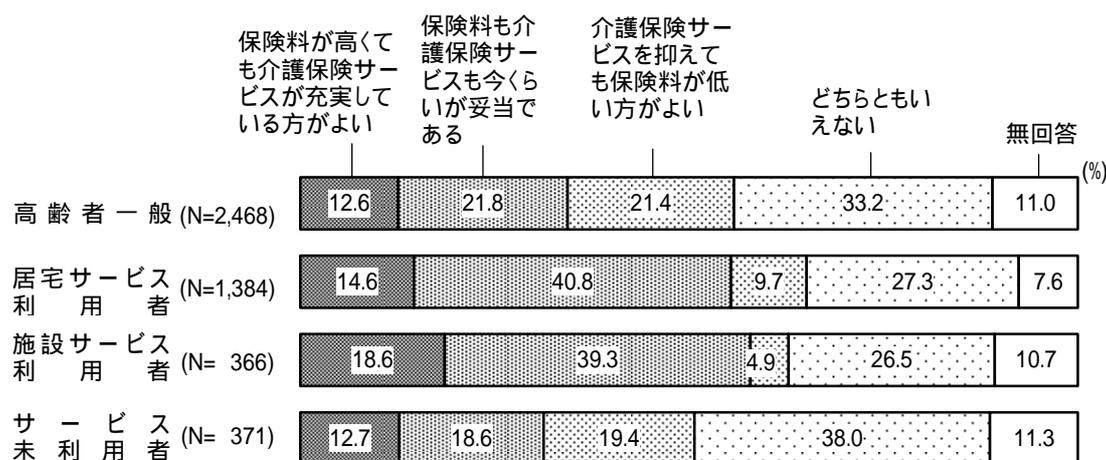
高齢者一般は、「行政の相談窓口」、サービス利用者は「在宅介護支援センター」の周知度が高くなっています。サービス未利用者は、「在宅介護支援センター」の周知度が「行政の相談窓口」より若干高くなっています。



介護保険料のあり方

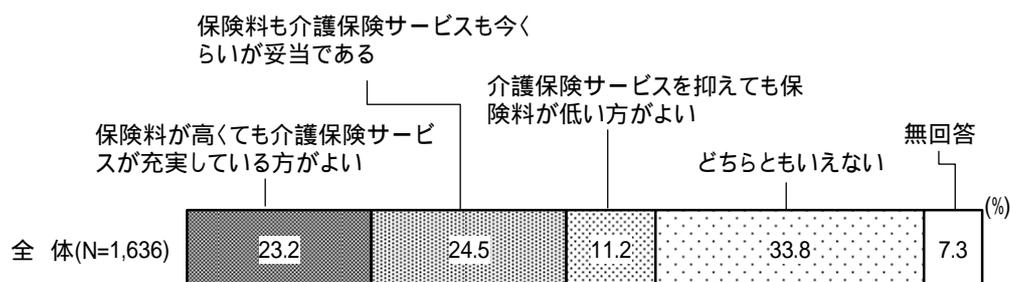
今後の介護保険サービスと保険料についての考え方をたずねました。

サービス利用者は、居宅・施設とも、「保険料もサービスも今くらいが妥当」が最も多くなっていますが、高齢者一般とサービス未利用者は「どちらともいえない」が最も多くなっています。



参考 (地域福祉調査の結果)

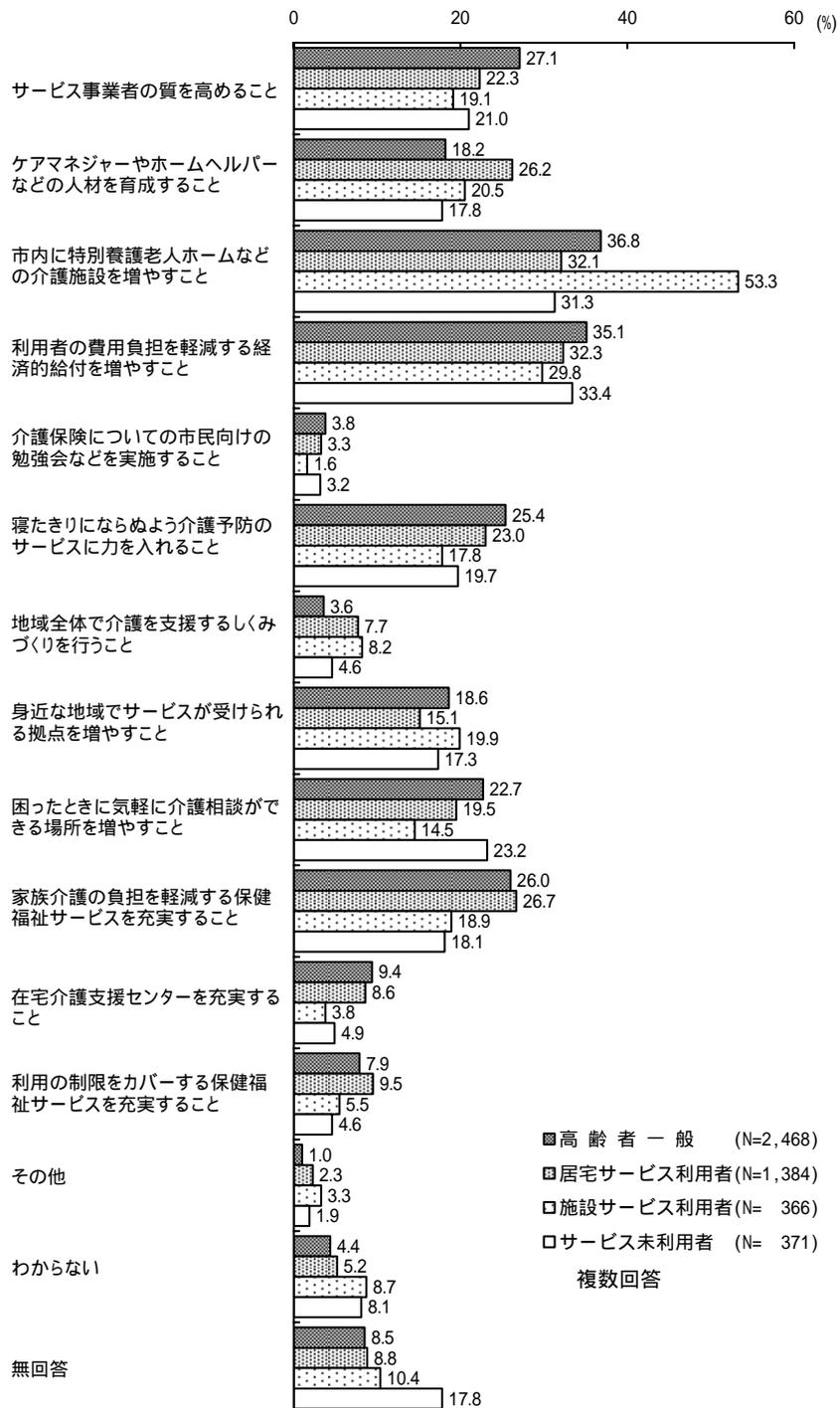
地域福祉調査では、介護保険サービスと費用負担についての考え方は、「どちらともいえない (33.8%)」が最も多く、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である (24.5%)」、「保険料が多少高くても介護保険サービスが充実している方がよい (23.2%)」が続いて、高齢者の意向と若干異なっています。



市が力を入れるべきこと

介護保険をよりよくするために、市が力を入れるべきことについて、たずねました。

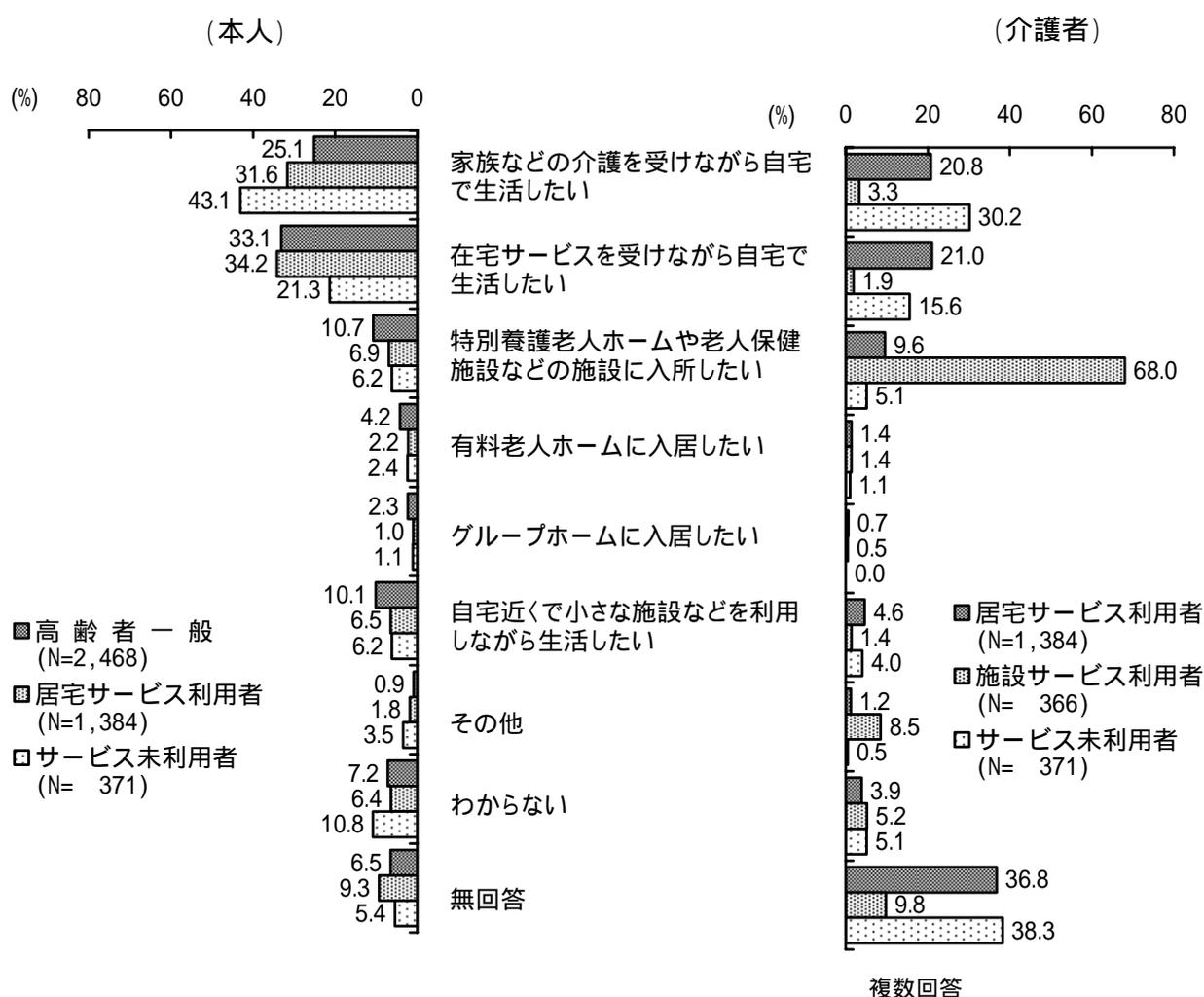
「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やす」、「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やす」、「サービス事業者の質を高める」、「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実する」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やす」が上位にあげられています。



今後の生活場所

今後、介護を必要とする人がどこで生活するのがよいと思われるか
本人と家族に考え方をたずねました。

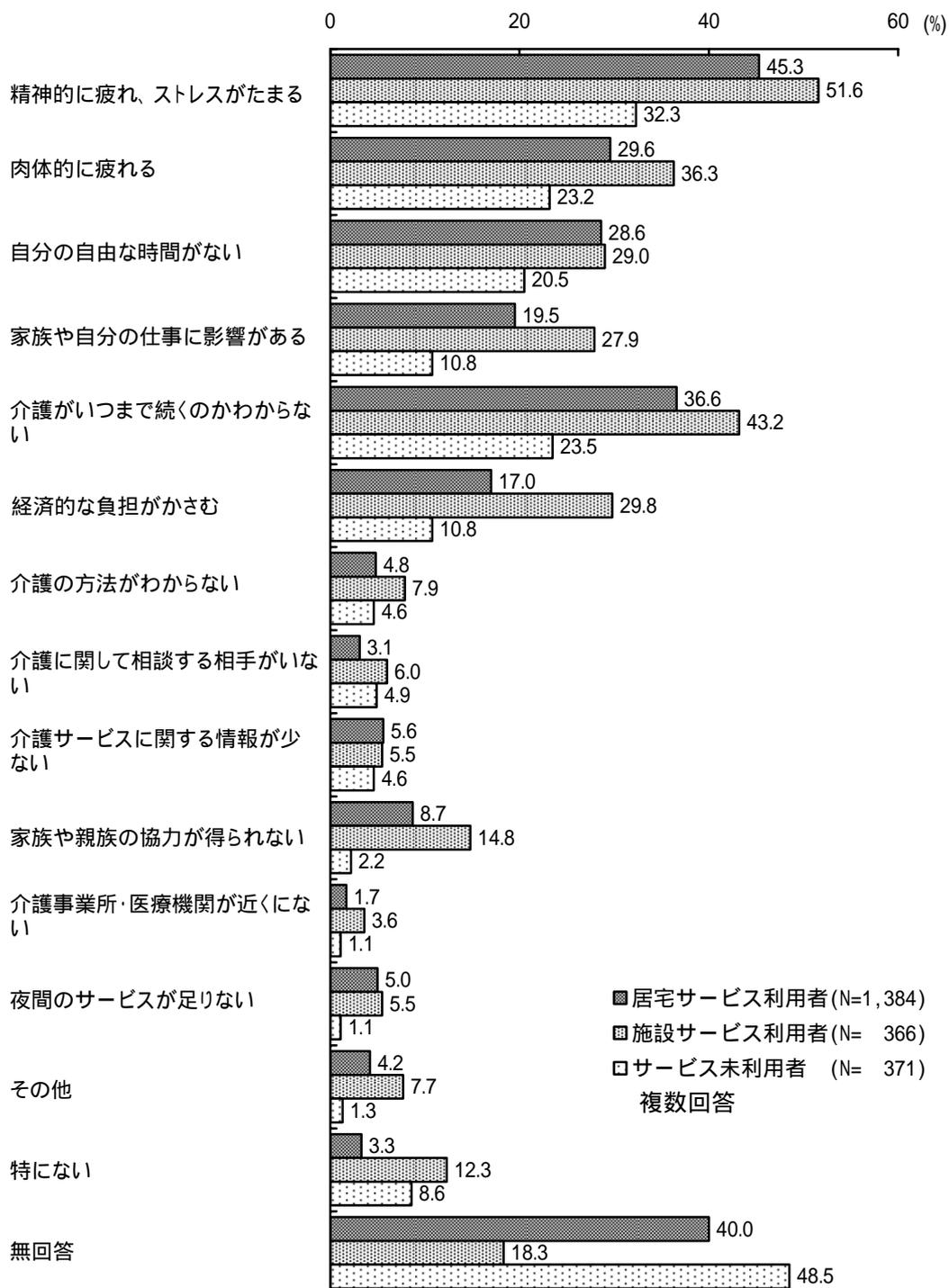
施設サービス利用者の介護者以外は、在宅希望(「 家族などの介護を受けながら自宅で生活」と「 在宅サービスを受けながら自宅で生活」)が多く、あわせると5割から6割以上となっています。なお、居宅サービス利用者、サービス未利用者とも介護者よりも本人の方が在宅希望の割合が高く、本人と介護者の意向の違いがみられます。



介護の問題点

介護者の方に、介護をしていくうえで、どのような問題があるのか、たずねました。

「精神的に疲れ、ストレスがたまる」、「介護がいつまで続くのかわからない」、「肉体的に疲れる」が上位にあげられています。

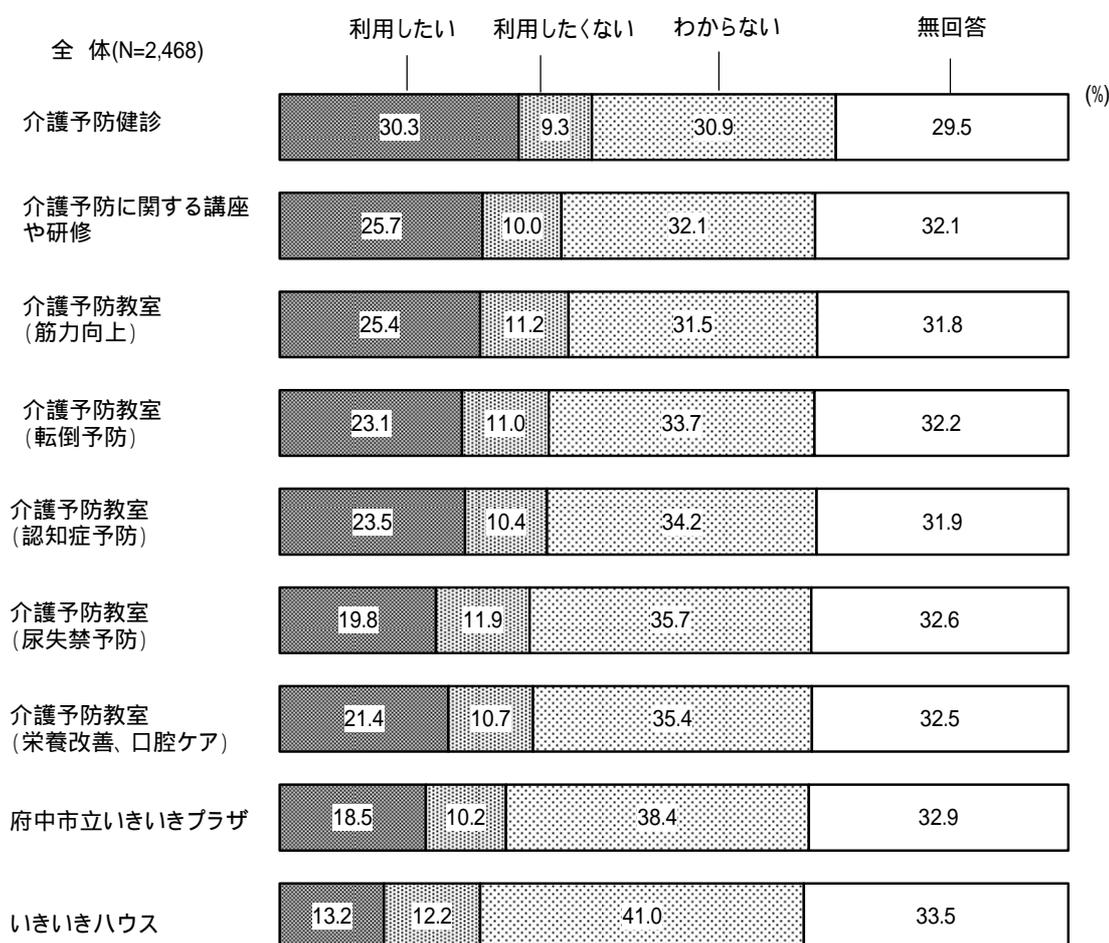


(2) 高齢者一般調査

介護予防事業の利用意向

介護予防事業の利用意向についてたずねました。

「利用したいサービス」は、『介護予防健診』、『介護予防に関する講座や研修』、『介護予防教室(筋力向上)』、『介護予防教室(転倒予防)』、『介護予防教室(認知症予防)』などが上位にあげられています。



解説 (用語)

府中市立いきいきプラザ

分梅町にある府中市立の介護予防推進センターです。

いきいきハウス

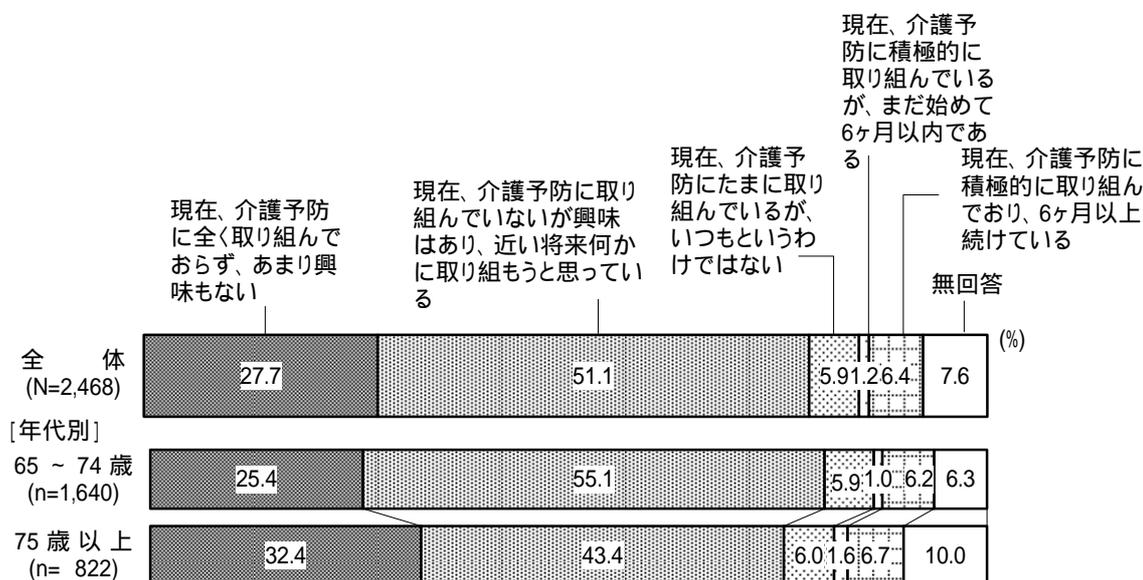
「府中市立いきいきプラザ」にあり、ひとり暮らしの高齢者などが生活リズムを整えるため、7日を限度に滞在することができる施設です。

介護予防への取組み

介護予防に対する考え方や実際の行動をたずねました。

介護予防に対する考え方や実際の行動は、「現在、介護予防に取り組んでいないが興味はあり、近い将来何かに取組もうと思っている」が半数を占めています。

年代があがると、「現在、介護予防に取り組んでいないが興味はあり、近い将来何かに取組もうと思っている」は減り、「現在、介護予防に全く取り組んでおらず、あまり興味もない」が増えるなど、介護予防に対する興味や意欲が薄れます。



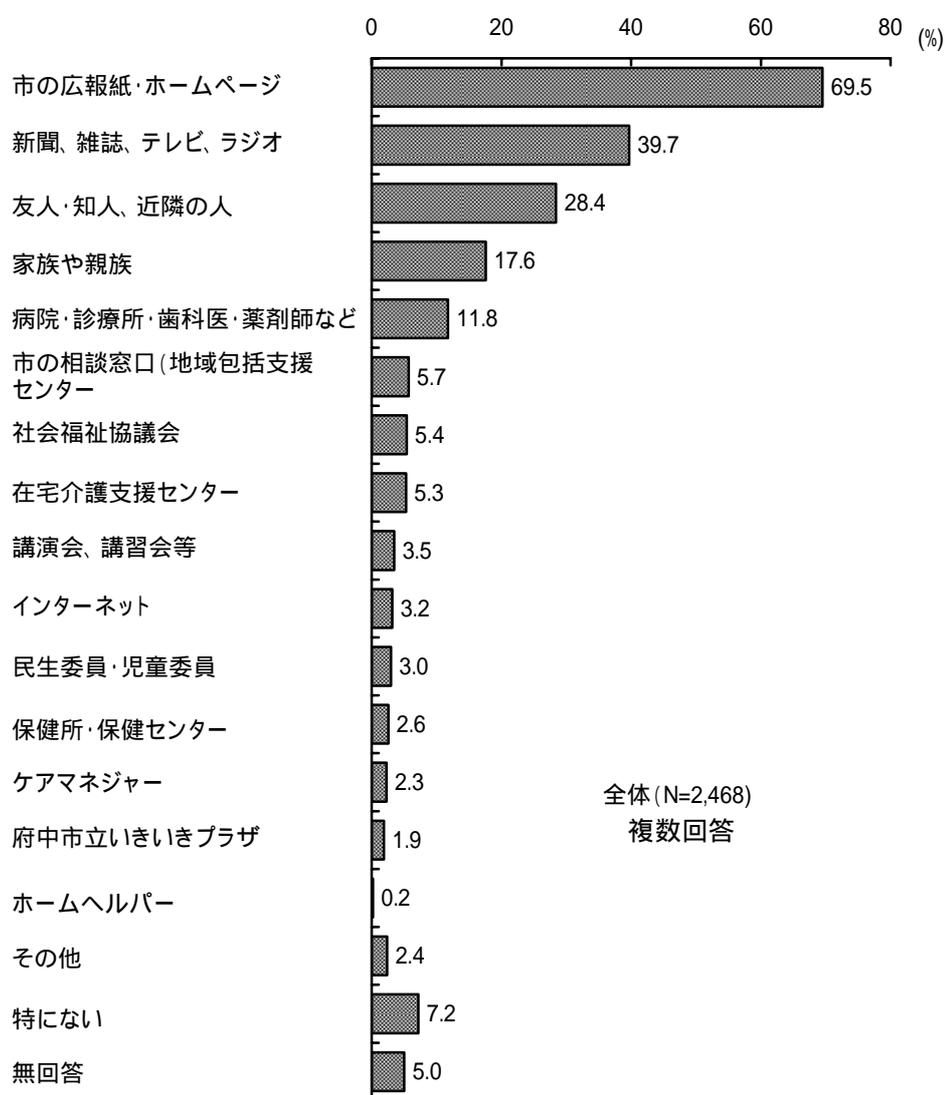
健康づくりのために実行していること(自由回答から)

- ・ 運動に関することでは、ウォーキングや散歩など「歩くこと」、ラジオ体操、ストレッチなどの「体操」、「自転車やサイクリング」、「ジョギング」、「水泳」、「スポーツジム」での運動などの回答が寄せられました。
- ・ 生活に関することでは、一日三食食えることや栄養バランスなど「食生活を気をつける」こと、早寝早起きの「規則正しい生活をする」などの回答が寄せられました。
- ・ そのほか、現役で働くことや、「近隣の清掃」をするなどのボランティア活動、地域活動、「旅行」、「カラオケ」、「絵画」など趣味に関することなどの回答が寄せられました。

情報の入手方法

健康、介護予防、福祉サービス、地域活動の情報入手方法についてたずねました。

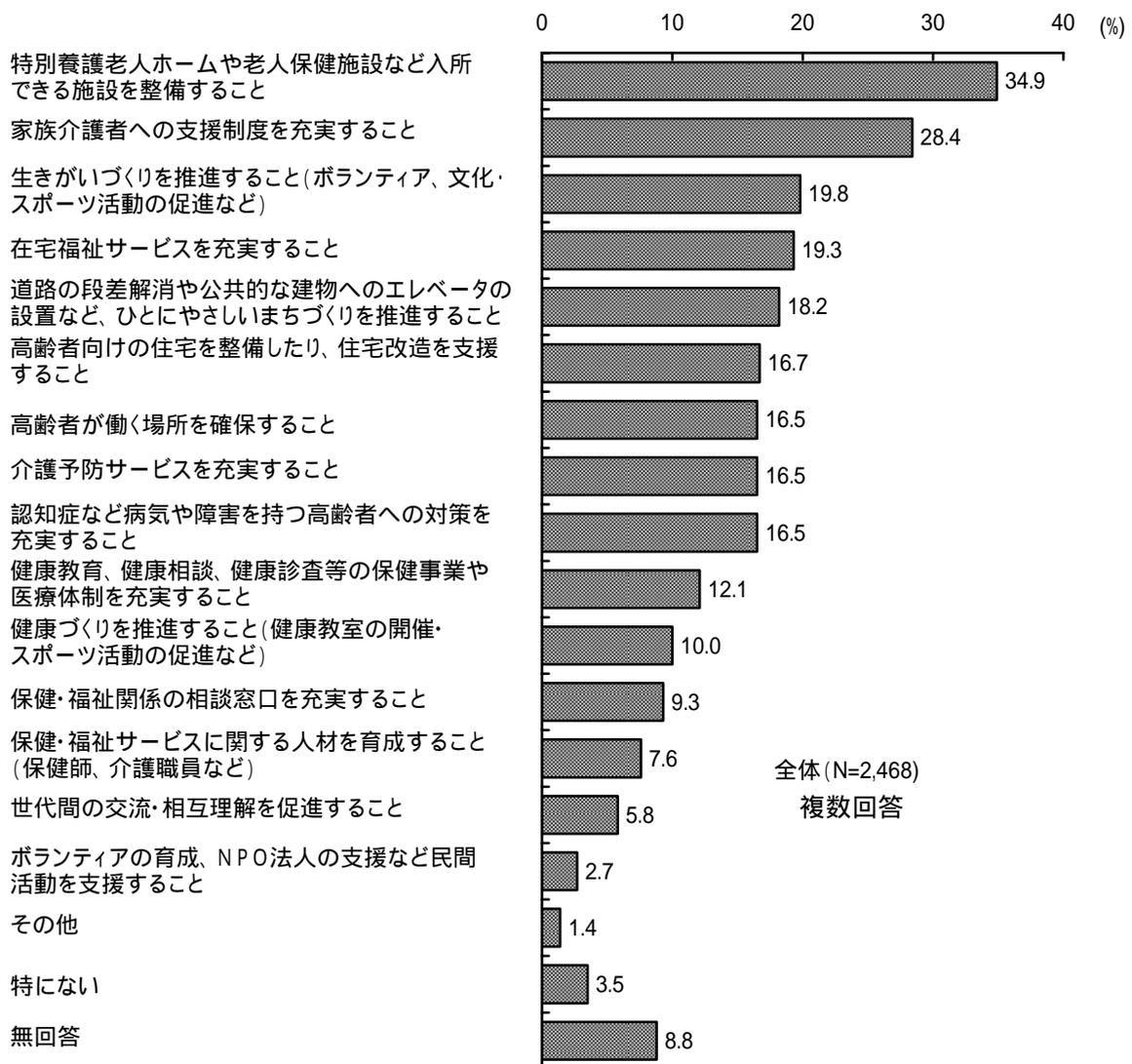
健康や介護予防、福祉サービス、地域活動に関する情報入手方法は、「市の広報紙・ホームページ」、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」、「友人・知人、近隣の人」などが上位にあげられています。



市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス

市が優先して充実すべき保健福祉サービスについてたずねました。

今後、市が優先して充実すべき保健福祉サービスとしては、「特別養護老人ホームや老人保健施設など入所できる施設を整備すること」、「家族介護者への支援制度を充実すること」、「生きがいづくりを推進すること(ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など)」、「在宅福祉サービスを充実すること」が上位にあげられています。



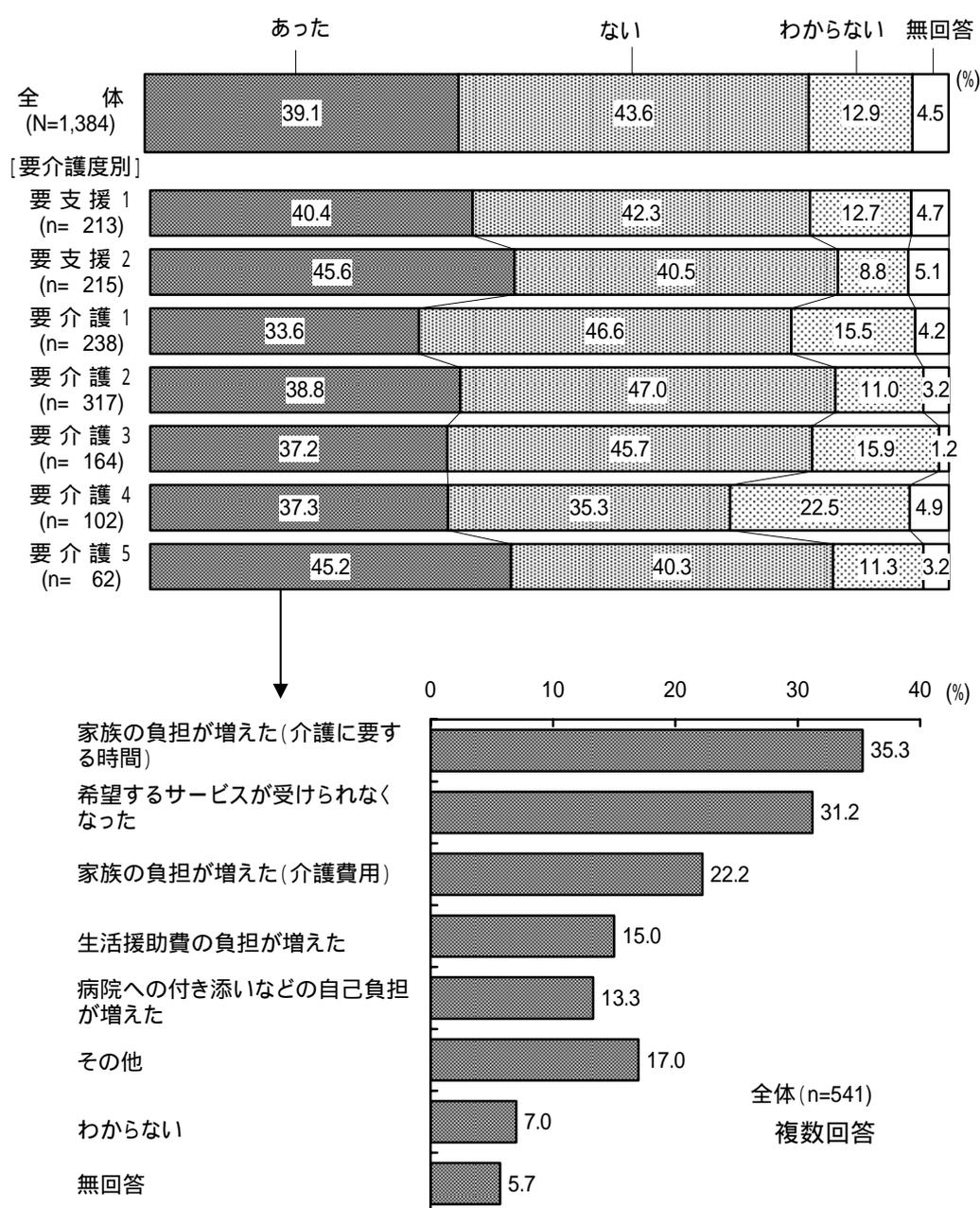
(3) 介護保険居宅サービス利用者調査

介護サービスの利用の変化

平成18年4月から改正介護保険法が施行されました。その結果介護サービスについて、利用の変化と変化の内容について、たずねました。

サービス利用の変化が「あった」との回答は全体では約4割でした。要支援2と要介護5で「あった」との回答が比較的多くみられます。

変化の内容としては、「家族の負担(介護に要する時間)」、「希望するサービスが受けられなくなった」、「家族の負担(介護費用)」が上位にあげられています。



ケアマネジャーに対する評価

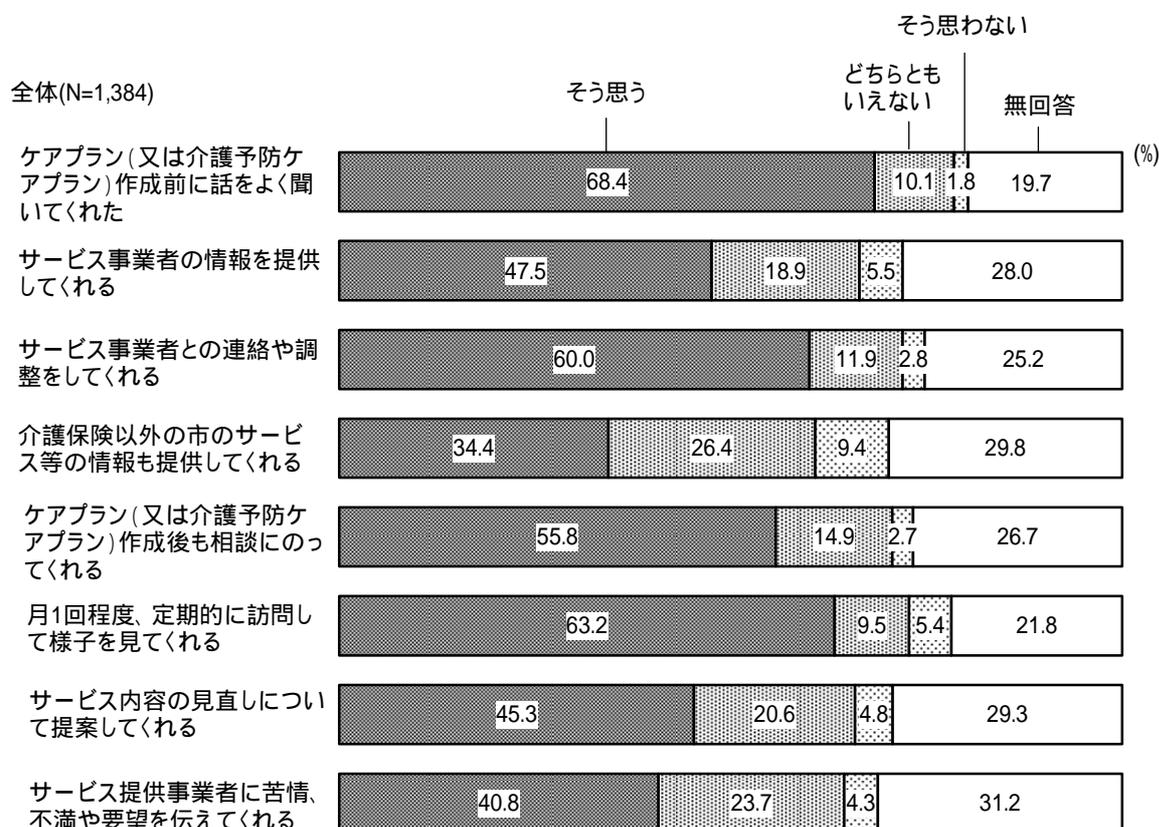
ケアマネジャーに対して満足しているかどうか、どのようなことに満足しているのかを、たずねました。

ケアマネジャーに対しては、「満足している」と「やや満足している」を合わせて、7割近くが満足しています。ケアマネジャーの対応への評価では、「ケアプラン(又は介護予防ケアプラン)作成前に話をよく聞いてくれた」が最も高く、「月1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる」、「サービス事業者との連絡や調整をしてくれる」、「ケアプラン(又は介護予防ケアプラン)作成後も相談にのってくれる」が続いています。

<ケアマネジャーに対する満足度>



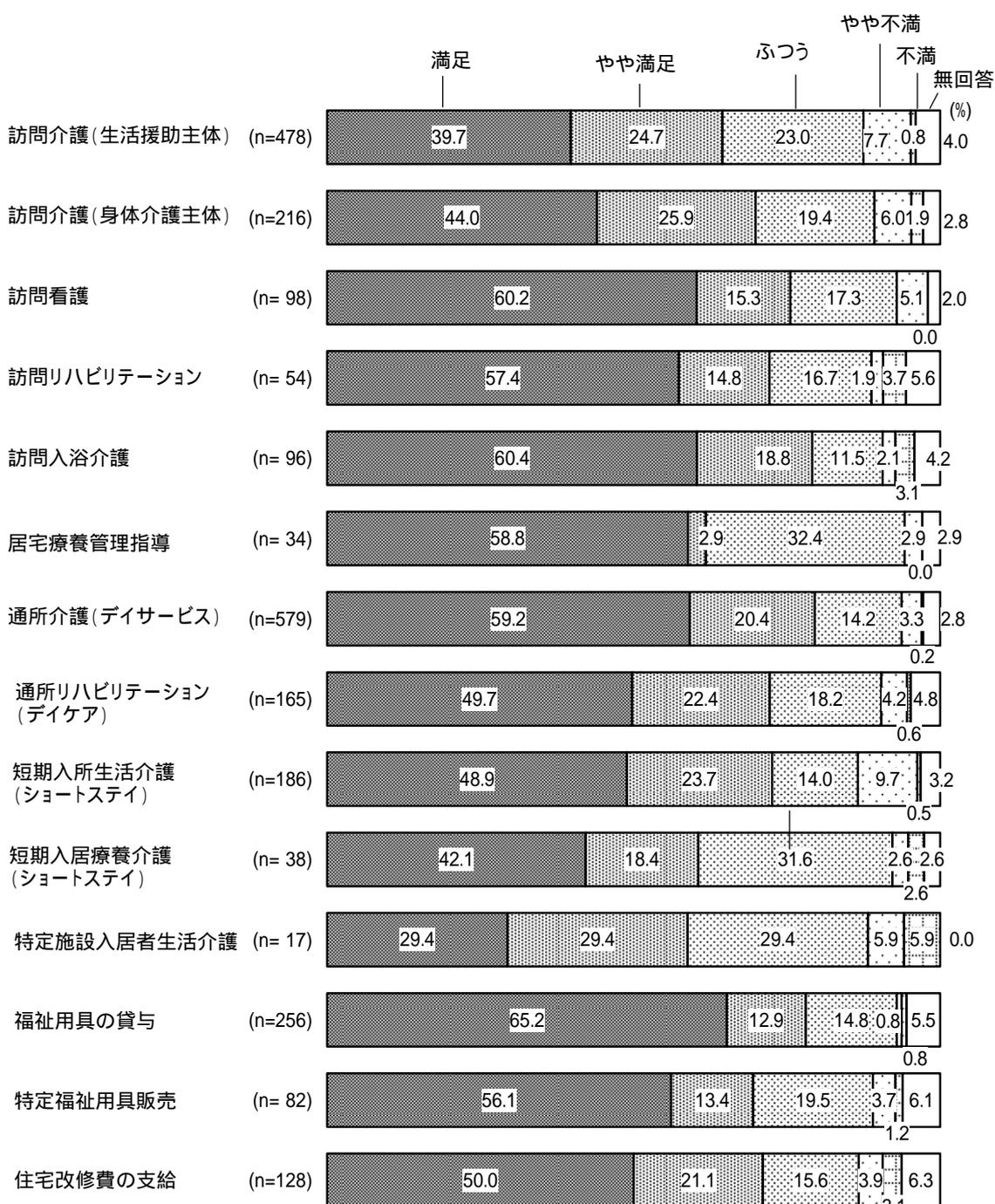
<ケアマネジャーに対する評価>



介護サービスの満足度

利用している介護保険居宅サービスについて満足がどうかを、たずねました。

利用している居宅サービスの満足度をたずねたところ、満足度(「満足」、「やや満足」をあわせた割合)は「通所介護(デイサービス)」が最も高く、「訪問入浴介護」、「福祉用具の貸与」が続いています。

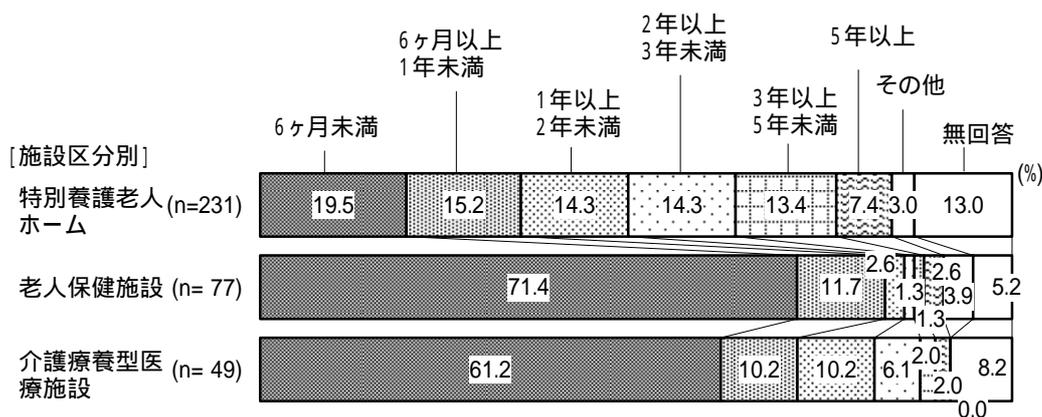


(4) 介護保険施設サービス利用者調査

入所までの期間

現在の施設に入所するまでの期間をたずねました。

現在の施設への入所が必要になってから(または希望してから)、入所するまでの期間を施設別にみると、老人保健施設は「6ヶ月未満(71.4%)」が約7割、介護療養型医療施設「6ヶ月未満(61.2%)」が約6割であるのに対し、特別養護老人ホームは「6ヶ月未満(19.5%)」が2割以下と少なく、2年以上が4割弱となっています。



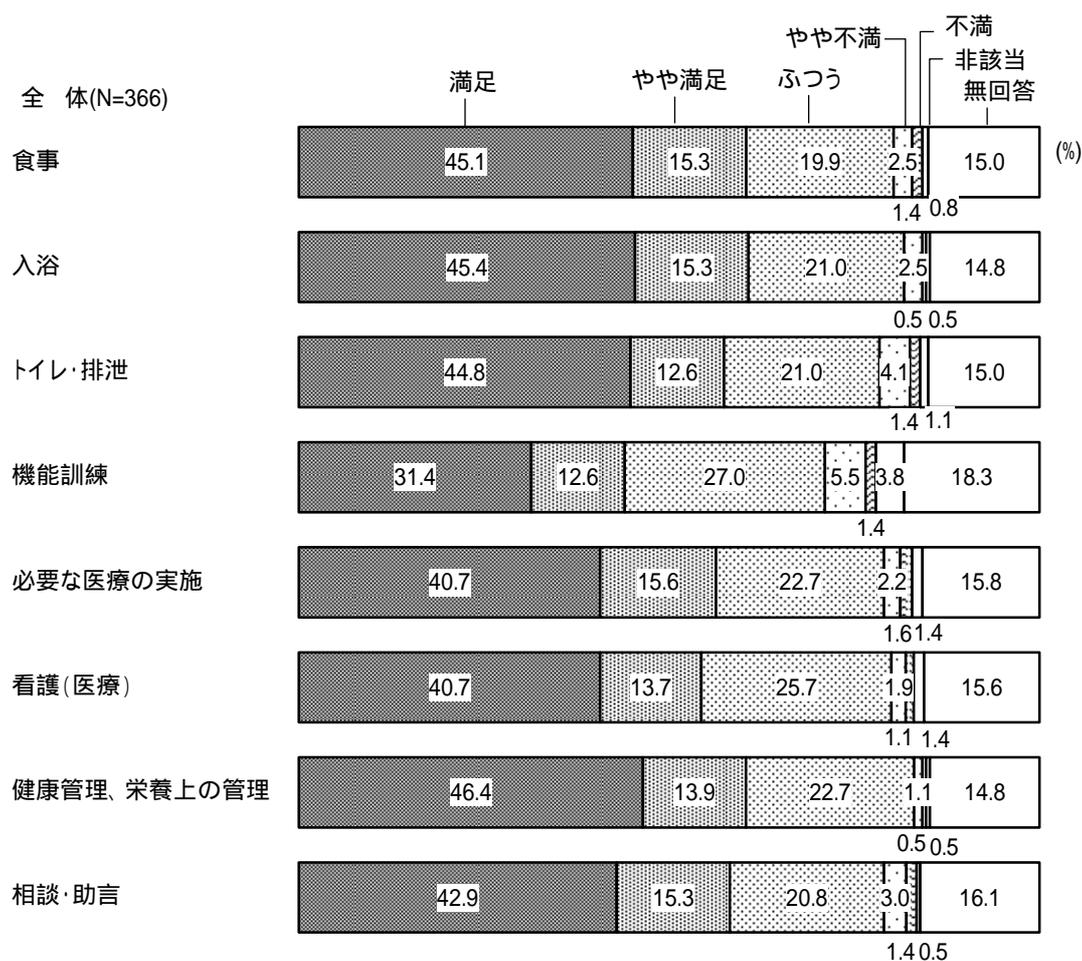
関連する自由回答の抜粋

- ・ 特別養護老人ホームを希望していますが空きがなく、しかたなく老人保健施設を利用しているが、耳が聞こえない理由で個室になってしまい、経済的に底をつきつつある。遠いところへはやりたくない。もっと市内に老人保健施設、特別養護老人ホームを作してほしい。(老人保健施設、女性、95歳以上)【娘】
- ・ 特別養護老人ホームに入所できるまで老人保健施設を転々としていた時の本人及び介護者の精神状態はかなり不安定だったと思う。もう少し積極的に施設を増やしてもらいたい。(特別養護老人ホーム、女性、75~79歳)【娘】

施設サービスの満足度

施設で利用しているサービスの満足度についてたずねました。

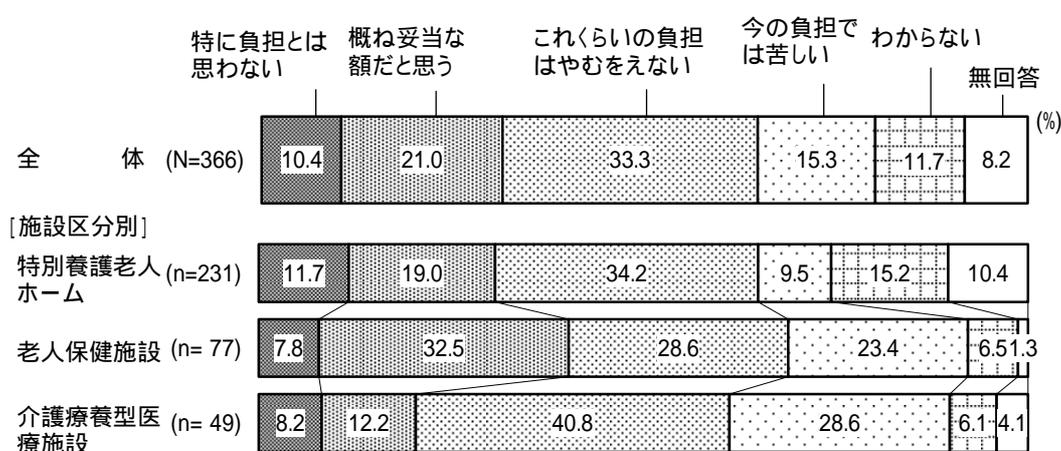
施設でのサービスの満足度（「満足」＋「やや満足」）は、「入浴（60.7%）」が最も多く、「食事（60.4%）」、「健康管理・栄養管理（60.3%）」が続いています。



施設利用料の負担感

施設利用料の負担感についてたずねました。

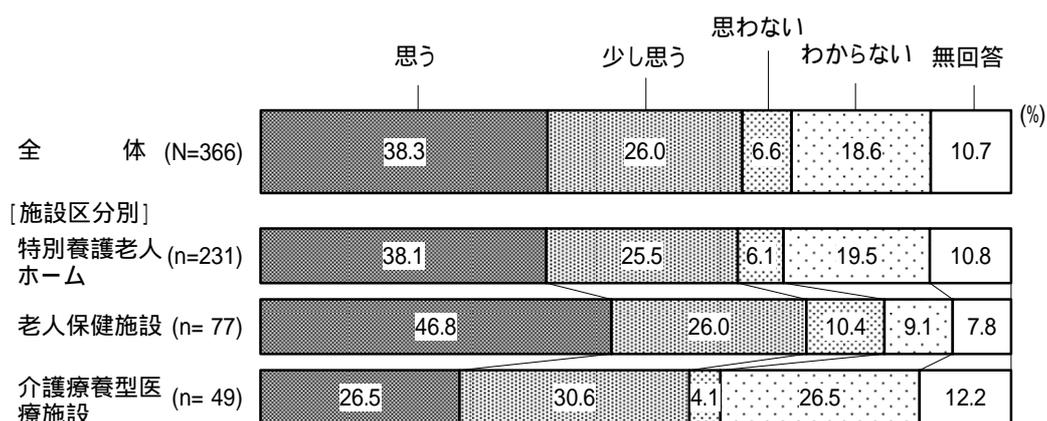
施設利用料の負担感についてたずねたところ、「これくらいの負担はやむをえない(33.3%)」が最も多く、「概ね妥当な額だと思う(21.0%)」、「今の負担では苦しい(15.3%)」が続いています。施設別にみると、老人保健施設では「今の負担では苦しい」が2割を超え、介護療養型医療施設では3割近い負担になっています。



尊重と尊厳について

施設での本人の気持ちや希望が尊重されているかたずねました。

施設での本人の気持ちや希望が尊重されているかについては、「思う(38.3%)」が最も多く、「少し思う(26.0%)」と合わせると64.3%となっています。施設別にみると、尊重されていると思う度合い(「思う」と「少し思う」を合わせた割合)は老人保健施設が他よりも高く、逆に介護療養型医療施設では最も低くなっています。



(5) 介護保険サービス未利用者調査

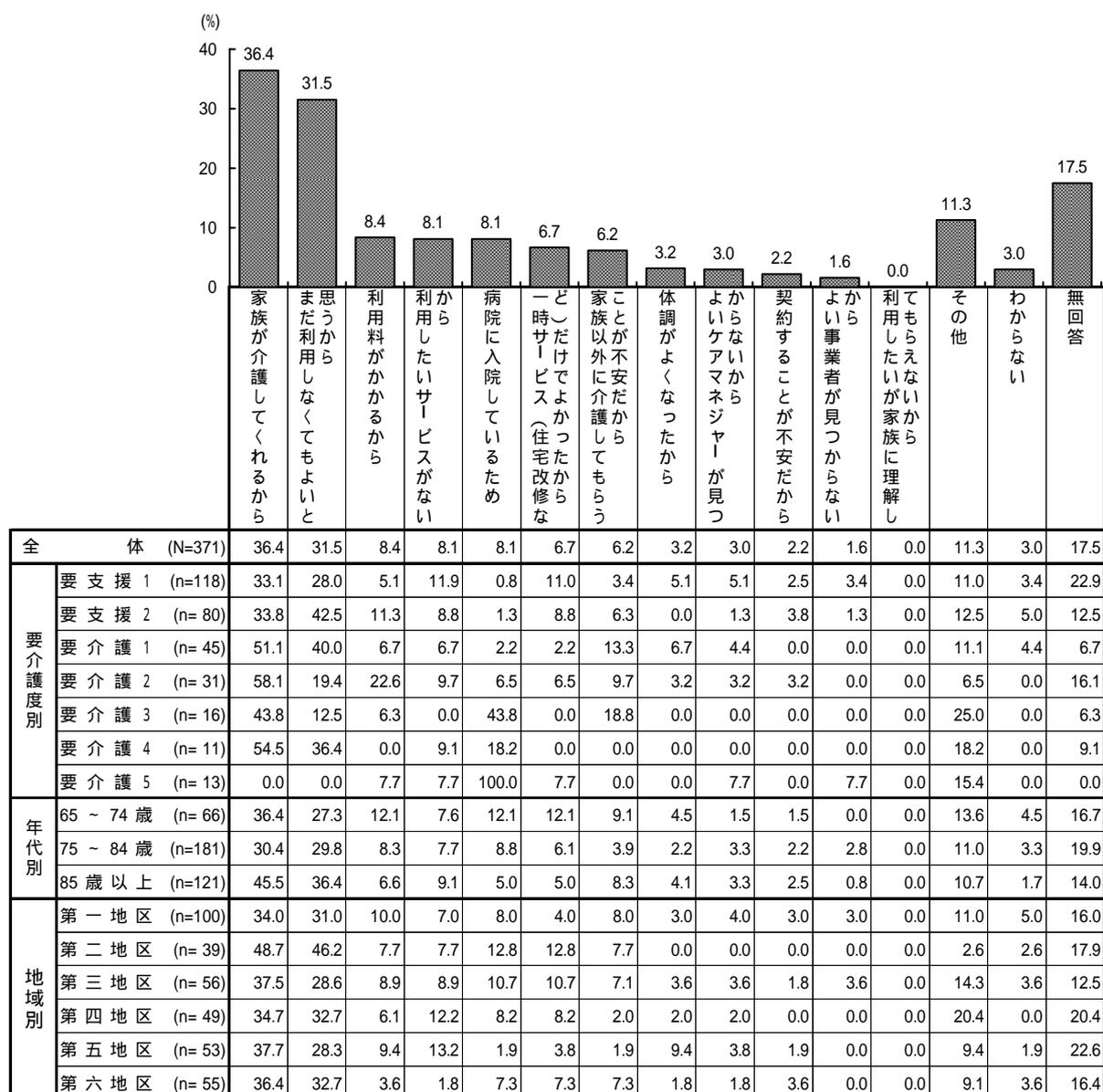
介護サービスを利用しない理由

要介護認定を受けながら介護保険サービスを利用しない理由について、
たずねました。

「要介護認定」を受けながら介護保険サービスを利用しない理由は、「家族が介護してくれるから(36.4%)」と「まだ利用しなくてもよいと思うから(31.5%)」が多くなっています。

要介護度別にみると、「家族が介護してくれるから」は要介護1以上で多く、「まだ利用しなくてもよいと思うから」は、要支援2や要介護1で比較的多くなっています。要介護5では全ての人々が「病院に入院しているため」と回答しています。

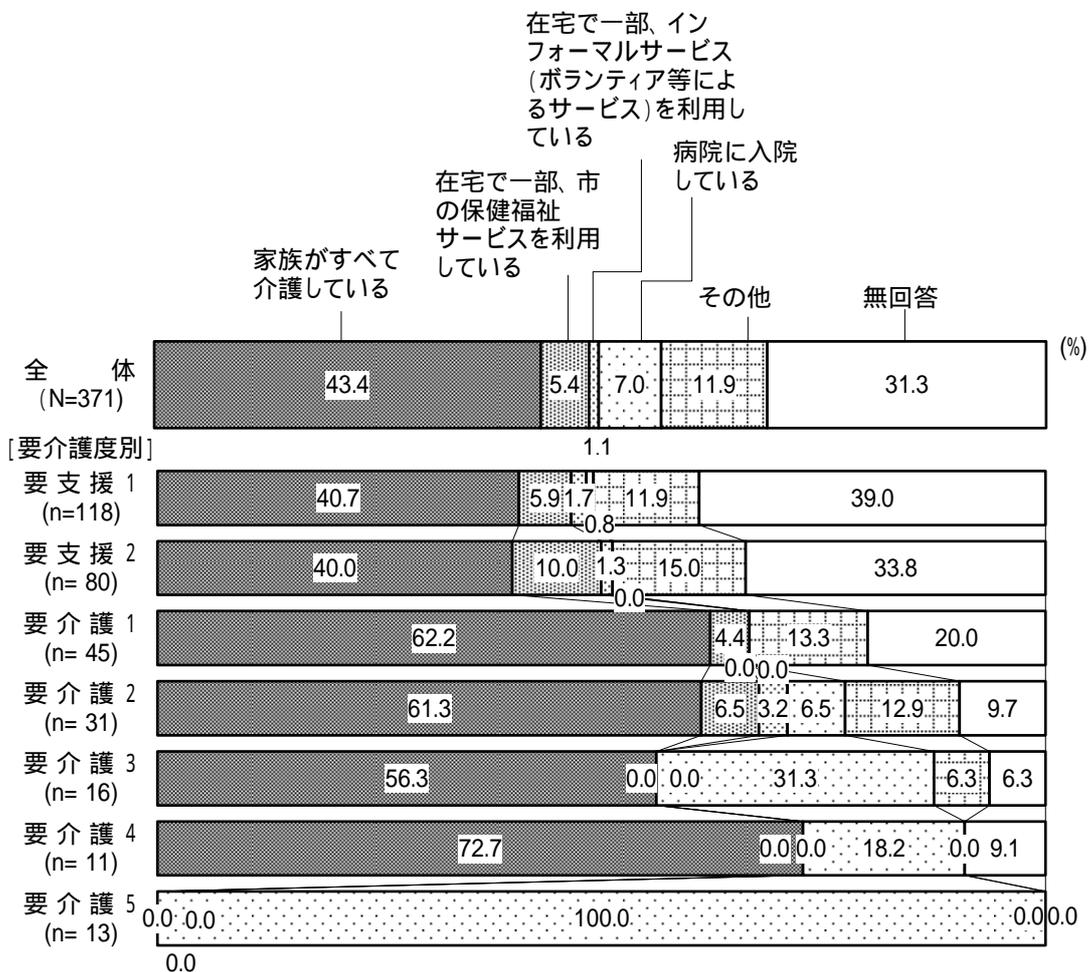
年齢別にみると、「85歳以上」では「家族が介護してくれるから」と「まだ利用しなくてもよいと思うから」が他の年齢に比べると多くなっています。



現在の介護方法

現在、どのような介護を受けているのかを、たずねました。

現在の介護方法は、「家族が全て介護している」が最も多く、4割以上となっています。
 要介護度別にみると、要介護4では、「家族が全て介護している」の割合が介護度が高いほど、高くなっていて、要介護4では7割以上となっています。



事業者調査

(1) 居宅介護支援事業者調査

在籍年数・離職の状況

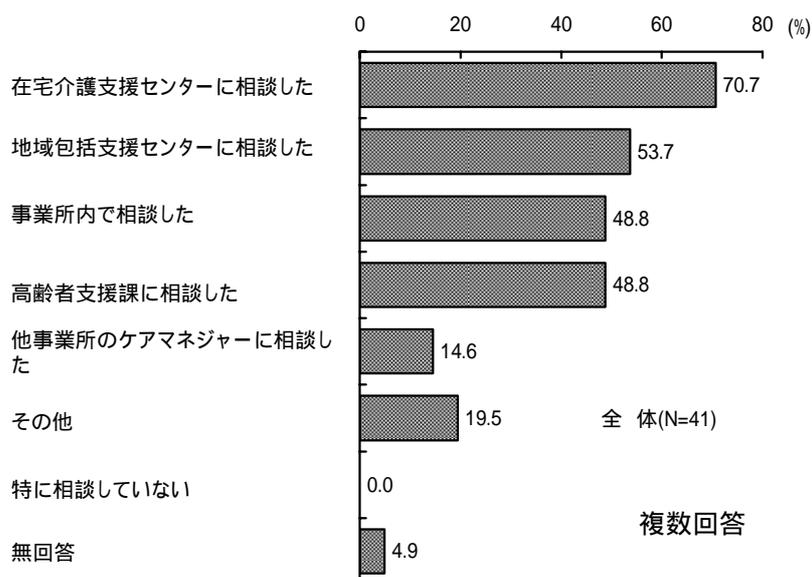
ケアマネジャー(介護支援専門員)の在籍年数・離職状況をたずねました。

ケアマネジャーの在職年数は、平均 3.66 年(N=39)です。
 昨年一年間のケアマネジャーの離職者は、平均 0.78 人(N=41)、離職率は平均 18.0% (N=39)です。内訳を見ると、退職者は平均 0.84 人(N=19)で退職率は平均 24.8%(N=11)です。転職者は平均 0.79 人(N=14)、転職率は平均 12.8%(N=10)です。

困難だったケースの相談先

ケアプランの作成が困難だったケースの相談先をたずねました。

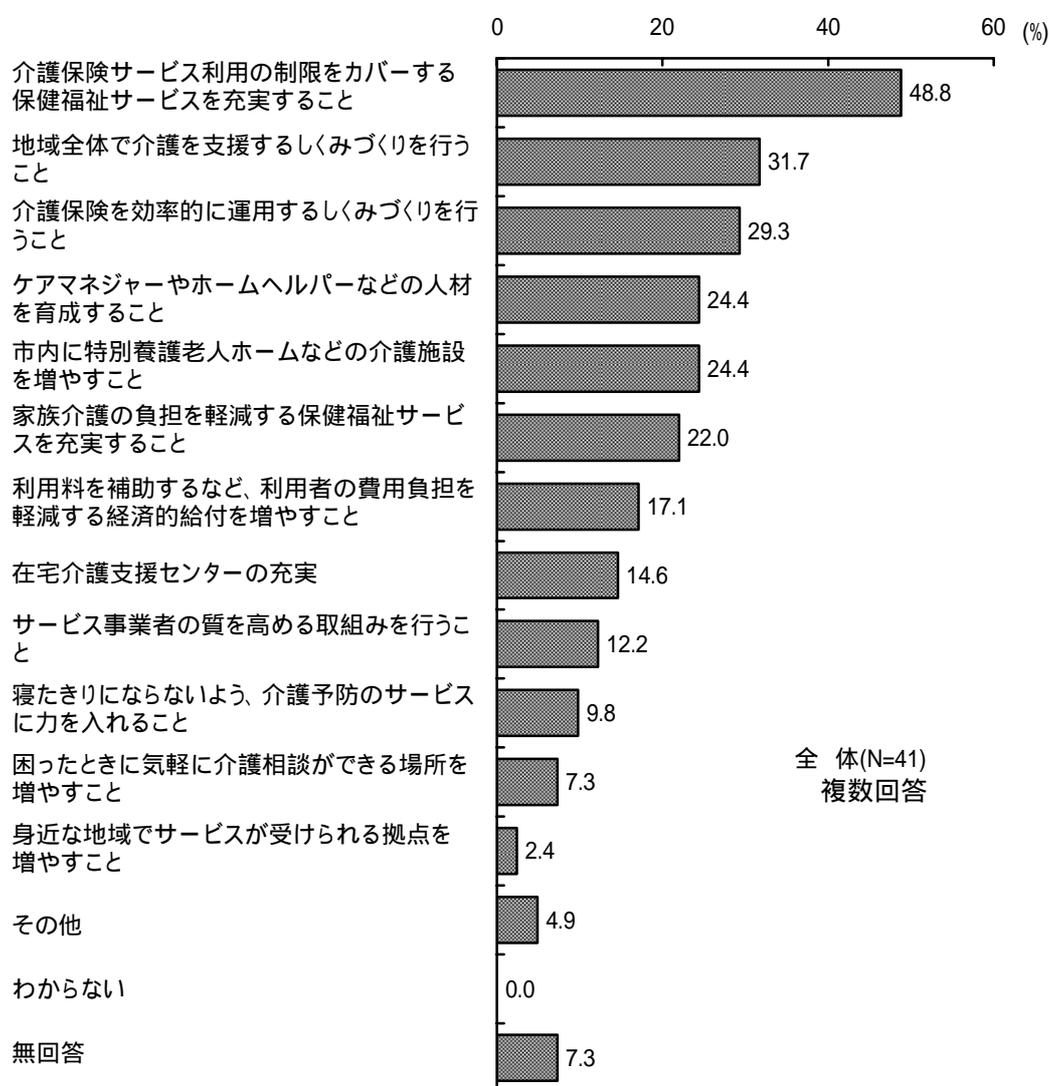
「在宅介護支援センターに相談した(70.7%)」が最も多く、「地域包括支援センターに相談した(53.7%)」、「事業所内に相談した(48.8%)」、「高齢者支援課に相談した(48.8%)」が続いています。



市が力を入れるべきこと

介護保険全体をよりよくするために市が力を入れるべきことをたずねました。

介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること(48.8%)」が最も多く、「地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと(31.7%)」、「介護保険を効率的に運営するしくみづくりを行うこと(29.3%)」が続いている。



(2) 予防・居宅介護サービス提供事業者及び施設サービス提供事業者調査

在籍年数・離職の状況

職員(看護師、ヘルパー、介護福祉士、社会福祉士)の
在籍年数・離職状況をたずねました。

職員の在職年数は、「看護師(平均 2.28 年)」、「ヘルパー(平均 2.60 年)」、「介護福祉士(平均 3.42 年)」、「社会福祉士(平均 4.04 年)」である。社会福祉士は定着率が高く、看護師は低くなっています。

看護師	(n=38)	平均	2.28
ヘルパー	(n=62)	平均	2.60
介護福祉士	(n=61)	平均	3.42
社会福祉士	(n=18)	平均	4.04

昨年一年間の職員の離職者数及び離職率は、全離職者数は 8.69 人(平均 24.4%)です。離職年数を見ると、退職者では、看護師平均 2.28 年、ヘルパー平均 3.15 年、介護福祉士平均 3.32 年、社会福祉士平均 0.33 年です。転職者では、看護師平均 2.73 年、ヘルパー平均 2.76 年、介護福祉士平均 3.27 年、社会福祉士平均 0.37 年です。

昨年一年間の離職者数・離職率の平均：8.69人(24.4%)			
退職者	看護師	(n=20)	平均 2.28年
	ヘルパー	(n=38)	平均 3.15年
	介護福祉士	(n=19)	平均 3.32年
	社会福祉士	(n= 6)	平均 0.33年
転職者	看護師	(n=14)	平均 2.73年
	ヘルパー	(n=16)	平均 2.76年
	介護福祉士	(n=15)	平均 3.27年
	社会福祉士	(n= 3)	平均 0.37年

離職の理由は、「人間関係(5.35 人)」が最も多く、「給与・賃金(4.81 人)」、「働きがい(3.14 人)」、「転出・結婚等(2.35 人)」が続いています。

働きがい	(n=14)	3.14人
給与・賃金	(n=26)	4.81人
人間関係	(n=17)	5.35人
転出・結婚等	(n=20)	2.35人
その他	(n= 9)	1.89人

人材確保の取組み

人材を確保するため、取り組んでいること、これから取り組みたいことを
たずねました。

人材確保の取組みは、現在では、「求人広告掲載(72.2%)」が最も多く、「中途採用枠の拡大(60.8%)」、「研修会への参加支援(54.4%)」、「新規採用の拡大(46.8%)」、「資格取得の支援(44.3%)」が続いています。今後の取組みでは、「求人広告掲載(65.8%)」が最も多く、「研修会への参加支援(50.6%)」、「中途採用枠の拡大(49.4%)」、「資金面の充実(48.1%)」、「新規採用枠の拡大(46.8%)」が続いています。

